

本部かわら版

発行責任者
神奈川県隊友会
事務局長 宮崎栄介



会務報告

県隊友会事務局

一 本年3月発行のかわら版(44号)以降、
県隊友会としては次のような事業を実施し
ました。

1 年度末報告等の作成及び監査受検
(4月30日)

2 第1四半期県理事役会(5月14日
地本試験室本部)

3 定期総会(代議員会)(6月12日 労プラ)
次の議案が審議され原案どおり可決されま
した。

これらの議案の細部は県隊友会ホームペ
ージ「総会・理事役会」に掲載しておりま
すのでご覧下さい。

第1号議案①令和3年度事業報告
②令和3年度決算報告
(監査報告)

第2号議案①令和4年度事業計画
②令和4年度予算

第3号議案①令和4年度理事役・監事役
②令和4年度代議員

(1) 第2号議案①で承認された令和4年度
県隊友会事業計画のうち、当面の計画事
項は次のとおりです。

・本部定時総会等への参加(会長)

(6月22・23日、市ヶ谷)

・第一回安全防災部会(7月16日)

・地域代表世話人会(7月下旬)

・九都県市総合防災訓練(9月初旬横浜・
川崎・相模原)

・第2四半期県理事役会(9月10日)

(2) 第3号議案で承認された、新理事役、新
代議員及び監事役は次のとおり。

・県本部推薦の理事役(2名)

坂巻 武(武山三浦)

田原昭彦(横浜南)

支部推薦の理事役(1名)

小甲顕史(湘南)

代議員(5名)

坂巻 武・田原昭彦(県本部推薦)

平井 功(県央)

小甲顕史・荻原洋聡(湘南)



郷党の思い

県隊友会長 松岡 貞義



私は海上自衛隊退職後、縁あつ
て郷里愛媛県の青少年の育成援助な
どを目的に公益的事業を行う一般財
団法人「豫山会」の会員となり、現
在監事を務めている。

愛媛県は江戸時代の伊予松山藩、
伊達宇和島藩、大洲藩、今治藩、西条藩などの諸
藩が明治の廃藩置県以降数度の編制替を経て現在
の管轄となった。その中で最も大きな藩が伊予松
山藩であった。同藩は江戸初期には経済的に豊か
であったが、寛文・延宝年間(一六六一〜一六八

〇)に干ばつ・洪水などの飢饉に見舞われ、それ
以後は財政難が続いた。幕末には徳川の親藩であ
ったことから幕府方につき、鳥羽伏見の戦いで朝
敵として追討され、一時は隣藩の土佐藩の占領下
に置かれたこともある。幕末、松山藩の下級武士
の家に生まれた秋山好古は経済的理由から官費で
学問のできる陸軍士官学校に進み、松山中学卒業
後に兄を頼って上京した弟の真之も海軍兵学校に
進んだのにはこうした時代背景があったのであ
る。私の生家は松山市の中心部に位置する城山山
頂に本丸がある松山城の南方にあり、高校卒業ま
で毎日北方に松山城を眺めながら育った。



伊予松山城



秋山好古

戦前、市ヶ谷台に陸軍士官学校があった当時、
在京愛媛県出身の陸軍将校達が、後輩の将校生徒
が何の設備もなく放置されていることを憂慮し、
在京の県出身将校に檄を飛ばして、明治四十五年
に「愛媛県軍人会」を結成した。設立の趣旨は、
県人将校・生徒相集い相励み、後進者を誘致し将
来有為の将校を得るためとして、設立発起人に秋
山好古大將らの名前が残っている。その後、大正
七年「石鐵会」(石鐵は西日本最高峰の石鎚山のこ
と)と名称を変え、昭和七年将校の拠出金により
会館を設立、昭和十一年には陸軍大臣認可の財団
法人となった。昭和十五年に愛媛県出身の山下汽
船社長山下亀三郎氏により現在の小田急東北沢駅

に近い東京都渋谷区大山町に四百坪弱の宅地の寄贈を受け、旧藩士をはじめ県関係の財界名士からも多額の寄付を受けるとともに、会員の将校からも自分の拠金を集め、石鐵会館を新築した。

戦後、占領軍によりほとんどの旧軍関連の財産は接収されたが、石鐵会の貴重な財産を後世に残すため、旧陸軍の会員に代わり在京愛媛県出身の財界人有志が役員となり名称を「豫山会」と改め、その目的に青少年の育成援助などを加え、昭和二十五年愛媛県知事監督の財団法人として存続することとなった。平成二十四年公益法人改革に伴い、一般財団法人豫山会に移行し、現在に至っている。(豫山会の豫は伊予の予の旧漢字、山は石鎚山の山)

現在の豫山会は旧陸軍関係者に代わって愛媛県を郷里とする陸・海・空自衛官OBが主力となり運営している。昭和三十九年に渋谷区の現在地に木造の会館を新築、さらに昭和五十二年に鉄筋三階建ての賃貸マンションを建設し、その家賃収入によって公益的の事業を行っている。主要な事業として愛媛県の青少年育成に寄与するため県青少年育成協議会、県V・Y・S連合協議会、県スポーツ協会等にこれまでに累計一億円を超える寄付行為を実施してきている。また、防大、防衛医大の愛媛県出身者を支援するとともに在京自衛官を招いた懇親会などを催している。こうした集いにおいて郷里の先輩として同じ道を歩む後輩と歓談し、時に高校の同窓生や同地域出身者に出会い話が弾むのは楽しいものである。

私の部隊勤務を振り返っても、同じ基地内に勤務する郷里の先輩は何かと頼り甲斐のある存在であり、時に声をかけられるのを励みに感じている。また郷里の後輩から頼りにされるのは先輩として嬉しいことでもあった。江田島の幹部候補生学校長を勤めていた折に、休日に愛媛県出身の学

生を官舎に招き歓談するのが楽しみであったが、ある時教官の一人からやんわりと「学校長、愛媛県出身学生の鼻はやめてください」と言われた。私は「彼らを鼻負しているのではないよ、郷党の集いだよ」と言い訳をしたものだが、他の学生には羨ましく映ったのかも知れない。
どの土地にも地域にも、他に誇るべき歴史と伝統があり自然があり風土があり独特の産物がある。そこから郷土愛が生まれ、郷党相集うのは自然の感情だと思ふ。百年を超える期間、先人が郷里のために尽力されてきたことに感謝しつつ、この歴史と活動に誇りを持ち、今後も郷党の支援に関わりたいたいと思っている。



東京渋谷区の豫山会マンションの外観



石鎚山

開花時期異変

顧問 濱野 靖



四季折々の花を楽しむのは、私だけではないと思う。所が本来咲く時期でない時に突然開花すると、さては気候変動の影響なのか、あるいは何か異変が起きたかと疑いを懐いてしまふ。

昨年の正月過ぎ大寒を迎えた頃、本来晩夏から秋に咲き始めるコスモスが寒さに弱いはずなのに開花し、立春を過ぎた頃満開となった。確かにマンションのベランダは暖かいのでコスモスが秋と間違えたのだろうか。

そして今年五月中旬に入り、橙色のシャコバサボテンが満開となった。このシャコバサボテンは、日照時間が短くなった十一月頃から開花しクリスマス頃満開となるはずが、なぜか立夏を過ぎて咲き出した。日照時間は長くなり、気温も高くなる時季になぜ咲いたのか。

これらの現象は、単なる開花時期の狂いなのか、さては自然界の異変発生の前兆なのか、疑問に感ずるものの、美しく咲いてくれたことに感謝しながら楽しんだ。

(陸 金沢区在住)



ラッパ水仙と共に咲いたコスモス



新緑を背景にシャコバサボテン



小さい庭の花と植木及び野菜の手入れによる 精神安定

県本部 監事役 寺田信夫



●私の家は昭和49年建築で2階建てのテラスハウス(17戸のいわゆる西洋長屋)です。それぞれ25㎡の専用庭と駐車場がついています。

昭和62年に中古で購入しました。管理委託会社はありましたが管理組合がなく、この4月修繕積立金口座の責任者交代に「規約」と「総会の議事録」の提出が求められ、たまたま班長の私が規約作成の主務者になりました。何かと眼の疲れをとるため、庭に出るには、萎んだ花と草抜等を5分程度実施しています。

●春の花が終わる。

五月末になり、綺麗に咲いていた「アネモネ」、「ラナンキュラス」が一齐に終わり、「牡丹」、「菖蒲」、「芍薬」、「クレマチス」、「アマリリス」と立て続きに咲いては萎んでいきます。これから咲き始めるユリは私が買って植え付けた10年物です。ツツジ、菖蒲、アマリリス、ピンクの時なし薔薇、これから咲く紫陽花は先住者が植えていたものです。庭を取り囲む外柵の植栽が大きくなり、日光と栄養を奪うため、こまめに支援しないと庭木も花も痩せてしまいます。庭木とプランタに植えた花に共通しますが、肥料をいれ、面倒をよく見た花は綺麗になります。肥料の遣り過ぎです。過ぎたるは及ばざるが如しで水仙をうまく咲かせることができませんでした。

●梅と袖と薔薇

梅は20数年前、盆栽として鉢に植えられていたものを買って来ましたが、当時は忙しく、面倒となり庭の外柵の木の側に植えました。当初は、花が咲いたり、咲かなかったりで、実がなることはほとんどありませんでした。面倒を見ないと梅雨時にアブラ虫だらけになります。この5年は花が終わわり、実がなる頃に風通しを良くするように枝を剪定すると確実に綺麗な実を付けるようになりました。今年も30個程度採取し、昔からの梅酒に入れました。来年には梅が食べられます。また同時期に「袖」と「檸檬」どちらを植えるか迷いましたが、当時は今ほど暖かくなかったので、病気に強い袖を選択しました。その成果で最近、すっかり実を付け、10月から3月の間は焼酎に入れて楽しんでいきます。更に赤い薔薇も買って植え付け楽しんでいましたが、老木となり、周りの木に負けてこの春、ついに枯れてしまいました。狭いところに植えすぎました。

●誰でも可能な野菜栽培

なんとか成功して食卓に登るのは、庭の真ん中を掘り起こし畑に植え付ける10本程度の「トマト」(ミニと中)、冬から春の「春菊」、2個の大きなプランタに種から植える「スナップエンドウ」「秋の春」、交代して植える「隠元」「春から夏」です。なぜ、この2種かと言うと、病気に強く、連作に耐えられるからです。また、少しの時間で手入れができることです。トマトは、植え付け大きくなると支柱を取付、脇芽を取ります。脇芽は挿しておけば大きくなり、増やすことができます。マンションでもプランタがあれば植えられます。



「アメリカに勝った」

県央支部 入江哲二



昭和33年4月舞鶴教育隊に入隊し、10月に江田島第1術科学校生徒教育部に入校水測員(ソーナーマン)としての教育が始まる。戦後13年アメリカと日本の差を肌で感じた時代だった。

水測員の主たる仕事は潜水艦を探す事である、そのための訓練が始まる。音感を養うための訓練教材は米海軍の二次大戦のものだが、スクリュウ音を識別するもの、水中音波プラー効果を識別した発信音と受信音の周波数の違いを判別する訓練である。一番の楽しみに行っている訓練は「アタック・ティーチャー(ATC)」と言って、ソーナーマンと各戦術担当の合同訓練、今でいう大型のゲーム機だ、何と云ってもこの訓練室には当時でも冷暖房がついていたので人気も高かった。今、携帯でゲームをする気にならぬのはこのためか。



訓練の成果は(文中ATにて)

あと一つは電子工学の教務だ、基礎は勿論のこと、我々が使用する水中攻撃武器、砲術関連の指揮システムの整備のための教務等である。これも米海軍のお古を習うのであるが、驚いたことにこれらの配線図は

カラーで系統毎に色分けされ電子の流れが分かり易く作成してあった。縦2メートル横5メートル(位)もある掛け軸で作成されていた。こんなものが2次大戦時に使用されていたのである。今考えれば幼稚なことだが、当時「これではアメリカに勝つはずがない」と思ったのだ。

38年4月には、下総の第3術科学校へソナー(AQS-5)機器の整備課程に入校する。航空電子整備の資格を取るためのものだ。この機器もこの課程もなくなる運命の古いものだ。お馴染みの同期のK・Cと私3人、2期生徒Nさん、1曹と2尉の人との6人のコースであった。教官は熱心な人で友田3佐と言



第3術科学校

って、生徒をえらく買っていた。ソナー機器の整備はこれでもか、これでもかと繰り返し教えられ、配線図がスラスラ書ける程になる。3か月足らずの期間であったが、有意義な実戦的な教務であった。その中で機器の調整で難しい所があった。教官も苦労していた

ところであった。ソナー音の発信と距離記録器の記録起点を同期させる重要な調整である。配線と配線の間を線(ワニ口クリップ)で繋ぎ白黒反転することで容易になることを発見した、終わろうとする機器整備のこんな簡単なことが何年間修正されていかなかった。「アメリカに勝った」のだ。以降「入江式」として教務に使ったそうだが、賞詞は貰えなかった。

時代が進み真空管からいつの間にかICチップに変わり、我々のやってきたことは一体何だったのか！戦後と現代を繋いだと思う感じがしない。「いや、そんなことは無い」と言ってくれる人がいてくれれば幸いである。



コロナ禍の野球観戦

武三浦支部 坂巻 武



3月のある日、横浜スタジアムで妻と野球観戦した。

10時半に家を出てバスで京浜急行の駅へ向かう。バスの座席は8割ほど埋まっていた。空いている席に並んで座った。2人でバスに乗るのは久しぶり。普段出かけるのは自家用車で行き先と言ったら近間での買い物くらい。コロナが始まってから遠出はほとんどしていない。

京浜急行のホームに電車が入ってきた。入ってきたのは2100形という2ドアタイプの2人掛け座席の車両で、他の乗客を気にすることなくゆったりと座れる。昔乗ったことがあるロマンスカー感覚で少しリッチな気分になれる。電車で出かけるのも久しぶりだ。

上大岡で市営地下鉄に乗り換え。ホームで電車を待っているとバースターズグッズを身に着けた人がちらほら見られる。この人たちも野球を見に行くと思うと親近感を覚える。

バースターズとの付き合いは15年くらい前に横須賀に越してきてからだ。新聞屋さんから2軍の試合の招待券をもらったのがきっかけで、当時バースターズの2軍だった湘南シーレックスの試合を観に横須賀スタジアムに行った。シャイアン

ツファンであった私だが何回か球場に足を運ぶうちに選手の名前と顔を覚えるようになり、地元の球団として応援するようになっていた。

市営地下鉄に乗車。コロナ禍にかかわらず車内は混んでいた。関内駅で下車する。上大岡駅で見かけた人たちも同じ方向に歩いている。球場近くのコンビニで飲み物と若干の食糧を調達する。食事は球場で弁当を買って食べるのだが、途中お腹がすくのでいつも食べるものを買うことにしている。

コンビニを出ると対戦相手の西武ライオンズのユニフォームを身につけた人も球場に向かっていく。球場が近くなった実感がわき気分が徐々に盛り上がる。

スロープを歩いてゲートに向かう。入口に近くと被っていた帽子を取るように言われた。歩きながら機械の前を通過する。前を通るだけで体温が計測できる。便利なものだ。

ゲート通過してスタンドに入り席を探す。この席が探すのも楽しみみのひとつだ。スタジアムのスタンドの階段は急で上るのがきつい、階段が急なだけあって座席からはグラウンドがよく見える。球場によっては前の人の頭がよく見えないことがある。本日の席はSSシート。少しゆったり感があるシート。飲料を置くホルダーもついていてシートの下には荷物置きもある。この席のチケットは公式戦では手に入りにくい。

球場を見渡す。グリーンの人工芝。スタンドはすべてバースターズカラーのブルーのシート。学生所代、このスタジアムが出来た時に試合を行ったことがあった。当時のシートは全部オレンジ色外野を守っていたが、フライが上がると打球が見えにくかった。フィールド内は掃鉢の底状態で熱が溜まっていて非常に暑かったのを覚えている。スコアボードには大学名と打順のところ守備



位置が表示されただけだった。ちなみに巨人軍の原監督がいた東海大学が所属していた首都大学リーグはしっかりとスコアボードの4番のところに「5原」と出ていた。格差を感じたものだった。スコアボードといえば、昔は打順と点数と審判、カウントだけの表示だった。今は、打順とスコアボードのこと、オーロラビジョンに選手の顔写真、生年月日、出身地、出身校、野球歴などが出ている。他に球速や投球数など様々な情報が表示されている。これもファンサービスの一つであろう。

席に着いて持参したユニフォームに着替えて観戦モードに入る。昔はユニフォームを着て観戦している人は私設応援団の人くらいだった。子供は野球帽を被って応援した。そういえば小学生の頃はみんなジャイアンツの野球帽を被っていた。今は全くと言っていいほど野球帽を被っている子どもをもかけない。野球少年だった自分としては少しさびしい。

試合が始まるとビールを飲むことにしている。それもバイスタース仕様のラガービール。屋外で飲むビールは格別。但しビールは1杯と決めていた。あまり飲むと眠くなる。

オープン戦ということで空席が目立つ。これが公式戦になるとほとんどスタンドは埋まっているので近くの人しか見えないが、今日はほかの観客もよく見える。それにしてもいろんな人がいるものだ。

隣の席に座った男性。試合開始前からハイボー

ルを飲んでいた。天気もいいし良い気分になったのだろう。試合が始まるころにはコックリコックリ眠りについていて。連れの女性は起こすこともなく試合を観戦している。男性はたまに目を覚ますと「うん、いい球だ」と言ってまた眠り始める。目が覚めると、また「うん、いい球だ」と言ってまた寝始める。その繰り返し。試合中の8割以上は寝ていた。眠り始める。

通路近くに座っていた老人は一人で観戦していた。席の前の通路はビールの売り子を通る。その老人は売り子が前を通るたびに声をかけビールを注文する。席に備え付けのビールホルダーにビールのコップが重なっている。少なくとも5、6個はあった。あまり試合を観ている様子はなかった。スタジアムの階段は急である。売り子さんは注文があれば階段を上り客のところへビールを届ける。急な階段を重いビールタンクを背負って行き来している。かなりの重労働だ。大変な仕事である。



少し離れた席にいた中年の男性はよく食べる人だった。席に着くなり買ってきたお弁当を食べ、弁当を終えると袋からおにぎりを取り出して食べていた。少し時間がたつと売店に行き買ってきたものを食べ始める。青空の下で野球観戦は腹が減るのか。

親子連れの席にファールボールが飛んできた。父親が拾って3歳くらいの女の子にボールをわたす。子供は大喜びだったがすぐに警備員が回収してきた。以前はファールボールは回収しなかったと思っただが、今は回収するらしい。せっかくだから子供にあげればいいのと思った。父親は携帯でボールを持っている子どもを撮影しボールを返し

ていた。

野球観戦は久しぶり。昨年はオープン戦1試合しか観に行けなかった。一昨年は何枚かチケットを取ったが、コロナの影響で開幕延期や無観客試合のようになってしまい球場に行けなかった。

コロナ禍の観戦は、ルールがある。声を出さないこと。マスクを着用すること。声援は拍手のみ。球場が静かなおかげで選手の声やボールがミットに入る音、打球音がよく聞こえるがやはり何か物足りない。早くコロナが収束し、以前のように声を出して選手を応援し、選手や球団の応援歌を歌い、チャンスが来ると盛り上がり得点が入るとハイタッチ、ホームランが出ようものなら大騒ぎ・・・という野球観戦がしたい。試合は、応援している選手の活躍でバイスタースが勝利した。「早く声を出して応援できるように」といいね」と話ながら球場を後にした。



湘南軌道の話

西湘支援会員 廣井 淳



西湘支部の廣井と申します。(海自OB)

子供の頃から鉄道ファンで中でも路面電車が好きで昭和46年から日本路面電車同好会に入会して活動しています。テツがらみで(鉄なので)艦船も好きで「おおい」と「うらなみ」ディーゼル員と中級電機員をやっていました。

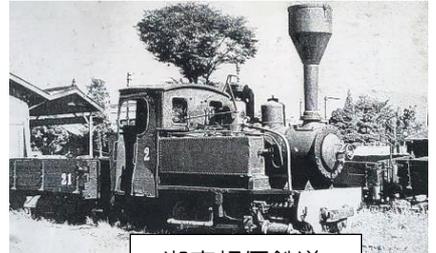
神奈川県には今もJRや私鉄がたくさん走っていますが、これまで市電を含め廃止になった路線

もかなりあります。東海道線二宮駅から秦野まで走っていた湘南軌道はレール幅762ミリの軽便鉄道ながら秦野名産の作物、葉タバコや乗客の輸送に活躍していました。明治39年にまず馬車鉄道で開業、大正2年に蒸気機関車の軽便鉄道で頑張っていました。昭和2年小田急が開通したことから秦野の乗客が小田急に流れ、恐らく貨物も小田急経由になったと思われることから軽便鉄道では太刀打ちできず昭和6年旅客営業廃止、昭和12年全線廃止されました。レール幅が違うので国鉄の貨車が入ってこれず二宮駅で積換えねばならず勝負にならなかったでしょう。

廃止からかなり経っていて、しかも道路上を走っていたので遺構はありません。唯一、二宮駅近くに湘南軌道本社跡がそのまま薬局として残っていました。安全上の理由から二階建てが平屋に改造され感じが変わりました。地震の多い所の木造家屋なので致し方ないでしょう。

20年ほど前に同じ職場の年輩の人が「子供の頃、二宮駅に留置してあった廃車体を覚えていて」と言っていました。さすがに走っているのは見ていないとか。今では神奈川中央交通のバスが当時とあまり変わらないであろう田園風景の中を起動跡にほぼなぞって走っています。(秦野、二宮発着・井ノ口経由・秦60系統)

昭和40年代までは秦野にも駅跡、水無川の橋脚、二宮駅跡に残ったレールとかが存在していた趣味誌に発表されていましたが、凄まじい都市化の影響で無くなってしまいました。保存しておく



湘南軽便鉄道

ば町興しに使えたでしょうが、そう簡単にいかないでしょね。

沿線の方のお力で湘南軌道の案内板とか線路跡の標柱が設置されていてそれを見ながら歩くのも楽しいし、ウォーキング好きな方なら大山を望む素晴らしい景色の中を歩くのもおすすすめです。(小田急大秦野駅からの貨物輸送は資料がないため推測です。貨物ホームはありません。)



神奈川中央バス



軽便鉄道記念碑

「西湘支部だより」

一 西湘支部の総会

総会会場

小田原市市民交流センター

「UMEKO」

6月18日(土)

役員他会員多数の出席をお願いします。

二 年会費の納入案内について

会員の会費納入率が極めて低いので令和3年度末納の方は是非ともは納入されますことをお願い致します。

年会費は 年会員は、 3000円

特別会員は、 10000円

です。



納入先方法については、

さがみ信用金庫湯河原支店

店番011 □座番号 0873009

隊友会西湘支部 代表 柏崎 誠一

にお振込みになる方法です。

編集後記

令和4年も激動のうちに半年が過ぎています。

北京オリンピックの開催も遠い昔のことのように思われます。新型コロナも日常のこととなり感染者数の推移にも感心を示さなくなりました。マスク着用も当たり前の気がします。

2月ロシア軍のウクライナ侵攻には衝撃を受けましたが、侵攻後100日も過ぎれば最初の衝撃も薄れ、連日ウクライナ情勢を報道していたワイドショーも減少し多くの日本人がロシア・ウクライナ間の戦いを忘れつつあるように感じます。

ウクライナの状況は国防の困難さを如実に表しております。国を守るということの本質について我々の目を覚まさせて貰った今こそ日本国民の意識を変え国防に備えるチャンスであります。7月の参議院議員選挙に我々の意志を反映させましょう。

皆様のご協力により無事かわら版44号を発刊することが出来ました。ご投稿いただいた皆様に感謝申し上げます。引き続き皆様からの原稿の投稿をお待ちしております。特に、西湘支部の方からの投稿をお待ちしています。

県事務局 小島

県隊友会事務局 電話 045-212-4686
 FAX 045-305-3595
 E-mail taiyu-kanagawa@nifty.com
 県隊友会 HP 神奈川県隊友会
<http://taiyukanagawa.la.coocan.jp/>

